

救急車適正利用



1. 増加する救急出動と救急隊の現場到着時間

町消防本部における平成29年の町内への救急出動件数は1409件となっており、平成28年の1387件から22件増となっています。現在、町の人口は減少傾向にあり、出動件数はほぼ横ばいとなっていますが、人口1人あたりに占める救急車の要請件数は増加傾向にあります(図1参照)。

養老町消防本部では、119番通報で救急車の要請を受けると、対応可能な最も近くの救急車を出動させています。救急要請が増加すると近くの救急車が全て出動中となり、遠くから救急車が出動することで、到着までに時間が必要となります。

このため、救急車が出場してから要請場所に到着するまでの平均時間は長くなる傾向にあり、平成29年中は8分20秒で、救命曲線を見ると傷病者への影響が危惧されています。(図2参照)。

一方、救急車が搬送した人のうち、入院を必要としない軽傷の割合は50%以上を占めており(図3参照)、また、救急車を要請した理由として、緊急性のある理由が多い反面、「交通手段がなかった」など緊急ではない理由も見受けられました。このような状況が進むと、救急車の到着が更に延び、救えるはずの命が救えなくなる危険性が高まります。

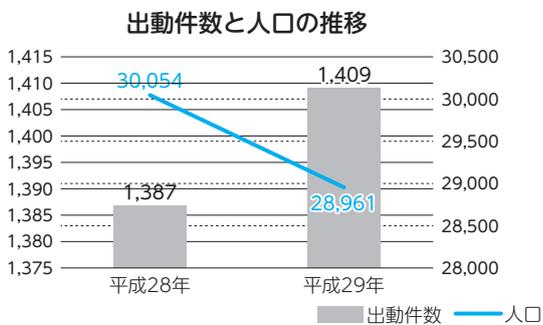


図1

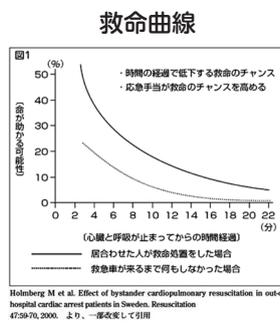


図2

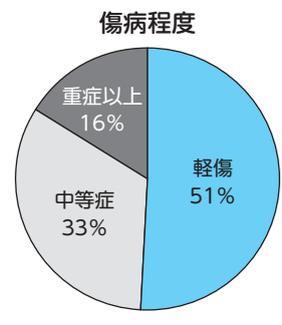


図3

2. 救急車の適正な利用のお願い

救急車の出場件数は、毎年増え続けていますが、出動できる救急車の数には限りがあります。もし、緊急性のない救急車の利用が増えると、本来近くから駆け付けるはずの救急車がいなくなってしまうのです。

緊急のときは、119
迷ったときは、32-3799
 (救急医療情報センター【町消防本部】)*
 をご利用ください。

※急な病気やケガをしたときに、「救急車を呼ぶべきか?」、「今すぐ病院に行くべきか?」など迷った際の相談窓口で、救急相談通信員(消防職員)が、症状に応じたアドバイス・病院案内を24時間年中無休で行っています。



3. 救急搬送トリアージについて

救急隊は、傷病者に緊急性が認められないと判断された人には、同意を得て自らの受診をお願いする場合があります。救急隊が緊急性の高い傷病者に対して、迅速かつ的確に対応していくためご理解とご協力をお願いします。

このような場合は、対象となる可能性があります。

手や足の切り傷、擦り傷
 手や足のやけど
 耳や鼻の異物
 鼻出血
 皮膚の発赤、かゆみ
 眠れない、不安、さみしい



緊急性が認められない場合自己受診をお願いしております。

(必要に応じ、診療可能な救急医療機関、救急医療情報センター【町消防本部】などをご案内します。)

